

インターバンクの声（2017年11月16日）

昨日の日経平均株価は、終値で前日から350円超も値下がりました。利益確定による売りが膨らんだようだが、来年も投資契約を継続するか否かを定める「45日前ルール」の最終期限日だったため、ヘッジ・ファンドなどが売り参入したとの話もある。株式市場が引けた後、今度は為替市場でドルが売られ始めた。米金利が低下し始めたことが直接の原因だが、まずドル円がドル売り・円買いに動き始め、少し間を置いて対ユーロでもドル売りが進んだ。10/31にも数銭だけ113円を割り込んだが、明確に113円を割り込んだのは10/20以来のことだ。それでもロンドン市場では112円70銭前後で下げ止まり、ニューヨーク市場の早朝に発表された10月の米消費者物価指数の発表後に112円50銭割れまでドル売りが進む場面があったものの、ニューヨークの昼過ぎには113円20銭近くまで戻した。ただ、やや戻していた米長期金利が再び低下に転じ、ニューヨーク株も低調だったとあってドル円も再び下落した。米金利、株価、原油価格、金属価格などがいずれも低下傾向になっており、相場が節目に差し掛かっているのは間違いない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。